社說

電信の經費を增す可し

近來電信に誤字延着多しとは我輩の毎度記したる所にして其原因は種々ある可しと雖も要するに人事の進歩と共に通信の著しく增加したるに拘はらず當局者は其設備の擴張を怠りたるが爲めに外ならず試に電報の取扱數を見るに明治二十一年には總計二百十二萬通なりしに廿六年には四百六十五萬通と爲り三十年には八百九十萬に增加したり而して之に應ずる設備は如何と云ふに二十一年に七十四線の機械は三十年には百二十九應と爲り事務員は百三十五人より二百六十九人に增したるのみ即ち通信は四倍餘の增加なるに其設備は二倍に足らざる擴張に過ぎず隨て東京本支局の如き以前は一人一日の取扱數平均八十七通なりしに今は百八十四通と爲り如何に勉强するも到底間に合はざるのみか人間の身には限あり假令ひ隔日勤務とは云へ二十四時間勤務き詰めに働く其間には身心疲勞して自から間違を免れずと云ふ今日の不始末は決して偶然に非ざるなり左れば取敢へず人員を增すと雖も充すにさへ困難の事情なきに非ず剩へ近年東京郵便電信學校の入學志願者甚だ少なく現に生徒定員二百七十名の內、九十名の欠員あり募集中なれども應ずるもの多からざるのみか各地一等郵便電信局に於て養成する修習生の如き以前は五十人の募集に二百人も應募者ありしに今は却て五十人に對して十名內外に過ぎざるのみと云ふ其次第は郵便電信學校に入るには先づ尋常中學卒業相當の學力を要し入校後更らに二箇年間專門の學を修めて首尾よく卒業したる所にて其月給は僅に十五圓內外に過ぎず月に十五圓位即ち日に五十錢にして職人の手間賃にも及ばず而かも日々の仕事は眼を廻はす位に多忙なりとありては志願者なきも無理ならず又修習生の如き六箇月間自費修業の後、得る所の俸給八圓內外のみ諸會社鐵工場等人を要する少なからざる時に於て苟も相應の文字ある者が八圓內外の所得に甘ぜざるは勿論にして特に同じ修習生にても私立鐵道會社にては修習中多少の手當を給するよし一等局の要に應ずるもの少なからざるよし其所なり斯の如くにして管に其定員を增すみと能はざるのみならず缺欠すら困難の場合に陷りて公務に少からぬ不便を與ふる位抑も何人の罪なるか假令ひ電信の所得を以て所費を償ふに足らずとするも必要の經費は惜みなく支出せざる可らず況んや其收入益だ豐なるに於てをや二十九年度の收入は三百四十八萬餘圓にして支出は二百六十一萬餘圓に過ぎず通信の增加に隨て經費を增し世間の事情に應じて月給を多くして以て今日の不都合なからしむるは管局者の責任なるに其然らざりしは怠慢と云はざる可らず臨時議會は近きに在り必要なる經費は速に要求するみなる可し或は議會の開場を待たず臨時緊急の事として處分し事後承諾を求むるも可なり人を增さんとして增す能はざる欠員を補はんとして補ふを得ず通信をして目に餘滯せしむ之を疏通するは即ち緊急事に非ずや何れにせよ遠に政府の責を塞げんあと我輩の返へすがへすも希望する所なり

○日蝕觀測（四）

好天氣

寺尾博士の日蝕を觀測する以今回を以て第五回目とするみなるが曾て西印度のマルチニック に於ける金環蝕の觀測は霧の爲め妨げられて十分に其目的を遂ぐる能はず而當に於ける金環蝕の觀測は霧笑の爲めに好結果を見るに至らず野州の黑磯に於て皆既を觀測したるときにも霧の爲め所となりて幾回を見る能はず北海の枝幸に於て皆蝕を觀測したる際には多少、コロナを寫し取るの目的を達したれど是れ亦、曇霧の爲め蔽されて十分の好結果を收め得たりといふべからず然るに本年一月二十二日の日蝕豫ねて就ては豫め地理上より精密の調査を遂げて觀測所の位地を選定したるのみなれば當蝕の當日に至り天上一點の雲なく觀測撮影を行ふに未曾有の便利を感じたりといふ

觀測の結果

コロナの濃光部を寫すには凡を幾秒時を要するや等に就き未だ研究せられたる成績の知られたる者あらざれば長短を異にする幾種の時間に於て或るべく相異なりたる幾個の撮影を試むるは研究に資益するみと大なるべしとの考より博士は二分間の皆蝕に就き成る可く多くの寫眞を撮らんと計畫せり僅々二分間に成るべく多くの寫眞を撮らんとするみとなれば寫眞機の取扱に關して成るべく時間の徒費を少からしめんが爲め寫眞機の取扱に練熟し置くの必要なるみと言ふまでもなし博士の一行は十二月二十日に孟買に着し機械の据付をは比較的迅速に成就したるを以て翌後、一月廿二日に至るや十分の熟練を積むことを得たり偖てコユール附近の地に於ては一月廿二日午後一時の頃、日蝕皆既を生じたるとなるが寺尾博士と半山教授は天れ〳〵攝當の寫眞機を以て最も敏活にコロナの撮影に着手し寺尾博士の方にては最長を十秒時間最短を一秒の三分一とし其間に長短種々なる時間の段階を設け二分時の間に總て八枚の寫眞を撮り平山教授の方にては最長を三十秒時間、最短を一秒半時間とし其間に幾段階を設け二分時の間に總て六枚の寫眞を撮り了りたり濃光部の寫眞を濃光部の分より大にしたるは小な國體內に於ける濃光部の形狀を大きく寫すより長くしたる割合に異なりたる形狀の寫るものにはあらず例へば焦點距離の短かき分に就ては時間の異なるに應じて結果も各々異なるが如しといへども十秒以上に在りては多少時間を延すも延したるだけの結果を見ざるに假たり撮影の成績に就ては猶ほ精細に研究し凡そ六箇月許の間に報告書を作り各國の天文臺へも通知する筈なりといふ

他の觀測者

米國のカンペル氏は一個の寫眞機を以て撮影しつゝありしが別に赤道儀に似たる裝置を設けざりきナイガンフラ教授は分光器（スペクトルスコープ）を用ひて專らコロナの分析に從事し居たりダイヤドルツグに於けるロッヤー氏はみくの同勢を隨へ居たるみと〳〵撮影と分光とを兼ねながら行ひたるならん各觀測者の成績を報告するは何れも數箇月の後ならん

觀測後の博士

觀測了りたる後、孟買大學に於て各觀測者を歡迎せんとの企ありしがペスト流行の爲め實行に至らざりき寺尾博士の一行は暫らく各所を視察したる後、二月十日を以て孟買を發し歸朝の途に就きたりとなん

（完）

○英艦の擧動

英國東洋艦隊司令官の旗艦なるグラフトン號は他の一二隻を率ゐて舟山嶋附近より北航し一兩日前芝罘へ投錨せりパワーフル號の去り賢行に至らざりき寺尾博士の一行は暫らく各所を視察したる後、二月十日を以て孟買を發し歸朝の途に就きたりとなん

（完）

○獨艦、膠州灣を出づ

獨逸軍艦コルモラン號は一兩日前初めて膠州灣を出で上海の方へ航したるが需要品を購買せんとするの目的に外ならざるべしといふ

○軍法會議の判決

瓜生商扶柔艦長に對する東京軍法會議の判定は既に決定して長き違りの御裁可を奏請しつゝあるよしなるが或は海軍刑法に照し怠慢の科に問ふて六箇月以內の禁錮に處せらるゝみとに成るやも測られずとの說あり

○横須賀鎭守府の春季演習

横須賀鎭守府にては今二十三日より各種の春季演習を擧行する筈なりと

○郡市に拘らざる警察署

內務省告示第二十七號を以て郡市の區域に依らずも警察署の管轄區域表を追加改正し尾道市及び御郡を管轄すべき尾道警察署を其中に加へ且つ尾道水上警察署の權に就きて改正する所あり たり

○敍任

宮內次官川田武定氏は一昨日從四位に敍せられ同時に正五位に敍せられたるもの五名、從五位に敍せられたるもの二十名、正六位に敍せられたるもの四十二名、從六位に敍せられたるもの百十三名、正七位に敍せられたるもの百八名、正八位に敍せられたるもの十八名ありたり

○軍人の昇任

一昨日陸軍二等軍醫正に任ぜられたるもの二名、三等軍醫正に任ぜられたるもの三名、憲兵大尉となりしもの二名、步兵大尉となりしもの一名、騎兵大尉となりしもの一名、一等軍醫正となりしもの二名、憲兵中尉となりしの五名、步兵中尉となりしもの九名、二等軍醫となりしもの十名、同二等獸醫となりしの一名二等軍吏となりしもの二名ありたり

○農商務省參事官

昨日左の如く左の通り任命ありしよし

東京帝國法科大學教授　岡野敬次郎

兼任農商務省參事官（敍高等官二等）

○傳染病研究所

傳染病研究所にては來る二十七日午後一時より芝公園內三緑亭に於て第十四回研究報告會授與式を擧行する由

○犯罪の美術（五十三）

醒峰譯

狼藉の窓にては、今宵の準備に忙はしく、空晴れ渡りて、鳥の鳴く聲暖く、うら〳〵と赤めけはみそあれ、家中うち開きて、風の吹き入るに任せつゝ、それは一方ならぬ混雜なりし。左れば表に、小机を据ゑて蒔繪の小硯箱を置くるセンチュリオン號の芝罘へ向ひたるが如く、讀んで讀者を待つとは云へども、普通の年始客は、留守と云ふを日實に、一刻に之を謝絕するに定めたり。

今しも謝絕されんとてか、案內を乞ひつる客は、左なりと聞きて、直に歸りも往かで、出でたる取次の者の來りて曰ふには、急用あり、是非主人に面會を待たし、左れども御留守とならば力及ばず、唯だ無緣になりとも、切に願めて去らずと、因じ果てたる體なり。止むなければ、玄關脇の小間に差し通さしめ、らの家の書生、甥の某と云へるをして立ち出でつゝ、用の筋を聞き取らしむ。その男は探偵にして、今宵慢さるゝと云ふ假裝會につき、主人まで密に御忠告申し度きみとあり、堅ち御代人に申し上げ難しとにはあらねど、極めて秘密を要する義なれば、成るべくは直きに〳〵申し通じ度し、何時ごろ御歸りあるべきやと云ふなり。

その言葉の深く由ありげなるに、甥は一存に答へ兼ねて、如何に計らふべきと躊躇するに、よし左らばと主人は、夏にその男を自己が居間に請はしめ、實は斯く〳〵にて失禮申したれども、誠は留守にて、御用件とか、御心置きなければ、御歸宅あるまで、方の太と慇懃なみそ其だ失禮を申し上げさすか私もれ入れ下すとの何か無面しかの如何では御座りますまじ、考へを存じて、御座りさしやうの分り難ねさす御座りさしやうの分りませんの考へたり、衣物を着けたり、ものの御座りまして分りませんの考へたりものの、現に今

のがあるかも知の方にあるので云ふ事は御座りの親友ばかりで、で御座りますかが誰だか分らせん。私の親友新角では御座りかと存じます。」て云ふに、伴は「貴が、左樣で御と云ふのは、そ外に、御注意なる落ち合つて參つつひ〳〵れ見落存じます。それ聽分乘け込む障子。私が今日、斯